

平成27年木津川市第2回定例会（6月11日）

代表質問通告書

1 さくら会 高岡 伸行	
質問事項：木津川市版の総合戦略とは	
質問要旨	<p>国の総合戦略に連動し、本市の2060年迄の展望を踏まえ、平成27年度中に5カ年の地方人口ビジョンと、地方版総合戦略の策定に努めなければなりません。</p> <p>本市におきまして4月1日には「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」を設置され、さらに庁内には「まち・ひと・しごと創生本部会議」を立ち上げ、全庁的な推進体制を整えられました。</p> <p>そこで質問します。</p> <p>(1) 地方が自立につながるよう自らが考え、責任を持って戦略を推進し将来にわたって活力ある木津川市を維持する事を目指さなければならないと考えますが、計画期間である今後5年間の基本的な方向は。</p> <p>またKPI（Key Performance Indicator）重要業績評価指標の設定はされようとしておられるのか。</p> <p>(2) 安定した雇用も創出しなければなりません。国が掲げます基本目標では2020年迄の5年間で30万人分、特に若い世代における正規雇用労働者の割合の向上、女性の就業率の向上が求められるが市としての取り組みは。</p>
質問事項：切れ目のない子育て支援を	
質問要旨	<p>若者が希望どおり結婚し、子どもが持てるようサービスの充実や子育てに係る負担の軽減、又育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現を図らなくてはならないと考えます</p> <p>これまでも市長は子どもは宝、日本の未来と考えられ子育て支援No.1を目指し取り組んでこられました。又、教育環境においても「ホップアップ学習」や「ステップアップ学習」を実施し、小学校6年生、中学校3年生におきましては、昨年度の全国学力調査で全国平均を上回る成果でした。</p> <p>しかし、さらに切れ目のない子育て支援を進めていかなくてはならないと考えますが、お考えをお聞かせください。</p>

2 さくら会 尾崎 輝雄	
質問事項：健全財政を子や孫の世代まで引き継ぐには	
質問要旨	<p>私も、これまで行財政改革をテーマにした、多くの質問をして参りました。</p> <p>今回、河井市長は、選挙戦を通じて訴えられた「健全財政を継続し、子や孫の世代に引き継ぐ」ことについて今一度説明していただきたい。</p> <p>(1) 行財政改革について</p> <p>① 合併算定替減対策について</p> <p>② 合併推進債対象事業について</p>
質問事項：防災対策の強化について	
質問要旨	<p>近い将来に、南海・東南海地震が発生するといわれています。</p> <p>また地球温暖化によると思われる昨今の集中豪雨により木津川市でも床上浸水が発生するなど、全国的に大きな災害が発生しています。</p> <p>そのような中で、今後の危機管理に関する市長の考え方をお聞きします。</p>
質問事項：高齢化社会の課題への対応について	
質問要旨	<p>木津川市の転入者は、若年層の住宅取得者が多く、高齢化率も全国平均や京都府平均に比べ低い状況であるが、既成市街地や市内の早期に開発された地域では、すでに高齢化が顕著になっている。</p> <p>また要介護の認定者が増加している中で、市長は高齢者福祉をどのように取り組まれる考えか。お聞かせください。</p>

質問事項：市政運営の基本的な考え方を問う

質問
要
旨

1 地方版創生総合戦略を問う

政府は、国を挙げて人口減少・少子高齢化に向けて、地方創生に取り組む必要があるとして「まち・ひと・しごと創生法」を施行され、各自治体に「地方版創生総合戦略」の作成を求めた。市において、4月1日に「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」を設置され、庁内に「まち・ひと・しごと創生本部会議」を立ち上げ、全庁的に取り組むとされていますが、「少子化対策」「人・仕事づくり対策」「地域づくり対策」など、どのような取り組みを進めていくのか。

2 消防本部設置の考えは

(1) 現在の市人口は73,400人を超えており、今後も人口増加が見込まれる。住民からの防災に対する要望が高まる今日において、防災拠点である消防本部の設置は必要であり、一部事務組合の常備消防の体制では、市民の生命と財産は守ることができないと思われる。災害が人災にならないよう早急な対応が必要である。市の対応と考えは。

(2) 消防団で点検していただいている、機械器具・ポンプ・消火栓ボックスは万全か。

3 介護保険事業と事業計画は

(1) 国は、年々のびる介護給付費を抑えようと、施設から在宅介護へ進めている。介護認定も国の基準で認定されているが、厳しくなってきたと思うが、市の考えは。

(2) 住み慣れた地域で安心して生活できる支援体制の充実にむけて、今後、介護保険事業・地域支援事業を、5年後、10年後を見込んで、どのように進めていくのか。

4 障がいのある人の総合的な福祉サービスに向けて

自立支援協議会やケース会議について一層の充実を図り、相談支援事業所の機能を高め、ケアマネジメントの実施体制を図る必要があると思うが、市の対応は。

5 学校給食センターの調理能力は万全か

児童生徒数の推移、給食センターの調理能力等から様々な検討を進め、当面、現在の調理能力でいけると見込んでおられるが、その検討の中身がはっきりと見えてこない。教育部の考えは。

6 通学路の安全対策は

通学路の安全点検については、市全体で118カ所の危険箇所を確認され、対策を実施されましたが、現状はどうなっているのか。又、建設部との連携はされているのか。又、不審者による安全対策も重要な問題で、どのように考えているのか。

7 木津川アートを活用し

木津川アートには、多くの作家さんが作品展示のため、市に来ていただき宿泊されます。木津川市の歴史文化に触れていただくために、当尾の郷会館に宿泊していただき、木津川市の魅力をより感じていただいて、全国に発信できる取り組みを進めていくべきでは。

平成27年木津川市第2回定例会（6月12日）

代表質問通告書

1 日本共産党木津川市議員団 酒井 弘一	
質問事項：海外で殺し殺される日本に変える動き	
質問要旨	<p>政府と与党の自民党、公明党は「戦争法」案11本をまとめて（実際には2本）国会へ提出し、5月26日から審議が始まっています。</p> <p>世論調査を見ると、どれをとっても法案に反対、今国会での拙速な可決成立には反対が多数です。国民の多くは海外で自衛隊が武器を持って闘うことではなく、憲法9条を守ることが平和への道と考えていることは明らかです。</p> <p>この事態を前に、市長はどのような見解を持っておられますか、伺います。「国政問題、防衛問題は国において議論されること」などという他人ごとではなく、憲法に従うことが求められる公務員として、また市民の思いをもとに市政を推進する市長として明確な答弁を求めます。</p>
質問事項：コミュニティバスの改善	
質問要旨	<p>今年の第1回定例会において、私は地域住民の足を守る、地域住民の暮らしを支えるコミュニティバスの改善を求めて質問を行いました。その時に市は「住民の願いに聞く耳を持ちたい」という趣旨の答弁を行っています。</p> <p>その後、取り上げた具定例に関しては、バス時刻は変更されず、中学校へ進学した生徒は結局バスを利用することをあきらめたと聞きます。</p> <p>具体的な事例をさらに述べます。住民の暮らしを支える、住民が利用できるバスへの改善を求めます。</p> <p>(1) 恭仁小学校児童の下校時刻とバス時刻がずれていて利用できない。また、水曜日の一斉下校時にもバス時刻がまったく配慮されていない。結局バスは「児童ではなく空気を乗せて走る」ことになっている。</p> <p>(2) 山城地域では、南北の路線だけが意識され、利用したい住民の住む集落にバスが入らないため、結局利用できない。この間ずっと聞かれる願いです。</p> <p>(3) きつつバス利用者においても、もう少しバス路線を延ばして欲しい。遠いバス停まで行けないという声が聞かれます。100円から200円にバス料金が引き上げられて以降のバス利用者の大きな落ち込みは改善の兆しが見えません。</p> <p>全体として、利用したいが利用できない。いくら言っても市は聞く耳を持たない、言っても仕方ないというあきらめの気持ちが広がっていることは重大です。</p> <p>市として、このような事態をどう考えますか。どう改善しますか。</p>
質問事項：サンタモニカとの姉妹都市締結	
質問要旨	<p>市長は先日の所信表明演説でサンタモニカ市との姉妹都市盟約の締結を進めると述べました。それに先立って市長選挙における公約でも同様の方針を明らかにしています。</p> <p>市民からは、唐突だ。なぜサンタモニカ市なのか。どこにあるのか。等の声が聞かれます。そこで伺います。</p> <p>(1) 京丹後市との友好都市盟約と今回の姉妹都市盟約は同じなのか、どう違うのか。</p> <p>(2) 姉妹都市の締結で何を指すのか。</p> <p>(3) 木津川市とサンタモニカ市との共通性、共同の課題はあるのか。</p> <p>(4) 市民にとってサンタモニカ市はどう評価されているか。</p> <p>「聖域なき行財政改革」を目指しながら、年間500万円の補助を行っています。本来なら事業仕分けの対象となるべき事業ではないのかという声もある中で、あらためて中学生のサンタモニカ市訪問の意味も伺います。</p>
質問事項：環の拠点の取り組み	
質問要旨	<p>上狛の茶問屋街へサイクリング愛好家を呼び込む取り組みは準備作業が4年目に入っています。現在の到達点はどうか。順調とは言えないと思うが、何が原因と考えていますか。</p> <p>あまりに欲張った企画になっていないか。地域住民への情報提供と意見、参画を引き出すことはできていますか。</p>

質問事項：残念石の保存	
質問要旨	<p>赤田川のつけかえと樋門の建設工事が続いています。その関係で、御藪と呼ばれる竹林が広範囲に伐採され、竹林の中にあった樹木も伐採されました。</p> <p>赤田川のつけかえで木津川の流路は確実に変化します。また、大野バイパスの建設が続けて予定されており、赤田川河口にある残念石の保存が心配されます。この間、NPO法人ふるさと案内・加茂からは保存を求める要望が出されています。</p> <p>国と府の事業ではありますが、市としての考え、取り組みを伺います。</p>

2 公明党 柴田 はすみ	
質問事項：所信表明を問う	
質問要旨	<p>河井市長も、市長として3期目をスタートされました。市長は、4年間のまちづくり基本方針の中で、①人口減少対策の一環として国が進めている地方創生への取り組みの木津川市版の立ち上げ、②健全財政の継続、③子育て支援No.1を3本柱にかかげられました。そこで、所信表明全般から何点かもう少し具体的にお聞きします。</p> <p>(1) 地方創生について</p> <p>木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦力推進委員会を立ち上げ、市にとって何が一番重要であるか等検討していただいていることと思いますが、今後の方向性は。(シティプロモーションの中身等)</p> <p>(2) 子育て施策について</p> <p>① 子育て支援No.1の河井市政では、3人目のこどもから保育料の無料化や中学卒業まで医療費の無料化、病後児だけでなく本年度より病児保育も実施されています。大変ありがたいとみなさま喜んでおられます。また以前的一般質問で提案しました就学前の子育ての相談や、関係機関との調整等行うための専門員「保育コンシェルジュ」が設置されるとのことですが、内容は。</p> <p>② いよいよ「子ども・子育て新制度」がスタートしました。国のほうでは、「チャイルドファースト社会」を目指し、認定こども園や放課後児童クラブ、待機児童の解消、産前産後ケア等すすめていく方針がだされております。本市では認定こども園については、以前より進めていくとの事でしたが、状況は。また、放課後児童クラブの体制は万全か。</p> <p>③ 忙しいママの為にスマートフォンで、子育ての記録等が残せるアプリを、府が開発しました。それを使って八幡市など導入する自治体が増えていますが、考えは。</p> <p>(3) 健全財政について</p> <p>実質単年度収支が7年連続で黒字など、最大限の努力をされていることは評価します。しかし、市長が心配されているように扶助費の大きな伸びや、公共事業の推進、地方交付税の減額など状況は厳しいものがあると思います。いつも市長は、スクラップアンドビルドと言われますが、具体的な考えは。</p> <p>(4) 高齢者施策について</p> <p>① 高齢化社会の進展に、認知症対策は喫緊の課題です。「認知症カフェ」の取り組みは、これまでも多くの議員が提案してきました。具体的な取り組み状況は。</p> <p>② 平成27年度は、第7次高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画が策定され、最後まで住み慣れた地域で自分らしい生活ができ、きめ細やかなサービスが受けられるよう、地域包括ケアシステムの構築が急がれます。要介護状態にならないための介護予防事業も健康長寿にはかかせないものです。市の現状と対策は。また、山城地域は高齢化が進むと予測されているにもかかわらず、日頃の買い物をするとこがなく、大変困っていると聞きます。こういった買い物難民の対策はどうしますか。</p>

質問事項：市制10周年を2年後に控え、どのような課題を認識し、その解決と市のビジョンを問う

質
問
要
旨

市長の所信表明について問う。

- (1) 市制10周年を契機にサンタモニカ市と姉妹都市の盟約締結を目指すとしているが、その他に若い人たちからも声が上がっている。私も10周年を機に「七夕祭り」の復活を提案します。市長のお考えをお伺いします。
- (2) 本市は、関西文化学術研究都市や有数の文化財、そして豊かな自然環境を有し、また私の地元では鹿背山焼きなどの陶磁器も生まれました。今後も文化・芸術をより一層活用して、活力ある木津川市にしていきたい。そこで、木津川市文化協会より提案されております「木津川市文化芸術の振興によるまちづくり推進条例（仮称）」の取り組みについて、市長のお考えをお伺いします。
- (3) 文化庁が新たに設けた「日本遺産」のひとつに「宇治茶」の生産に関わる上狛茶問屋街も認定され、今後ますます注目が集まると思われます。また、当尾地域では浄瑠璃寺、岩船寺などが多くの観光客を集めています。そこで、平成25年から取り組まれている「まちかど観光案内所」が約70カ所あると聞いております。行政として効果はどう評価されているのですか。お聞きします。
- (4) 高齢者が要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように進めてまいりますとのことですが、これは在宅介護を進めていくということだと思いますが、訪問介護事業所並びに訪問介護ヘルパーさんの人員は足りているのでしょうか。また、特別養護老人ホームは、この4月より要介護3以上でないと入れません。その上、特別養護老人ホームゆりのきでは、現在入所230人待ちと聞いています。新規の特別養護老人ホームの計画はあるのでしょうか。お伺いします。
- (5) 「住みよさランキング」府内で1位の評価を得ているが、この評価を行った東洋経済新報社では、どのような内容で1位の評価になったのですか。このことが本当に市民の満足度が府内1位なののでしょうか。今後は「住みよさランキング日本一」を目指すべきと考えます。市長のお考えは。
- (6) 先日（5/25）も関東の茨城で震度5弱が発生しました。本市地域においても、東南海・南海地震がいつ起こるかもしれません。同時に、これからの梅雨の到来、ゲリラ豪雨なども発生します。水害（箇所）の恐れはありませんか。対策は。また、崖くずれ等の危険箇所は。今後の河川災害・土砂災害等の防災強化対策並びに消防団との連携についてお伺い致します。
- (7) 私の地元鹿背山と法花寺野の懸案事項でもありますクリーンセンター建設についてであります。平成26年2月17日付で、当時の区長から市長宛に「クリーンセンター建設にかかる鹿背山区要求書」が提出されました。このことは、鹿背山区が反対運動から、条件交渉もやむを得ないとの苦渋の選択をされたものです。このクリーンセンター建設にかかる鹿背山区の13項目の要求について、未だ何の進展もしていないと聞いています。今後の取り組みについて市長の考えをお伺い致します。